

かえりみちの できごと

森の おくに、たぬきの 家が ありました。たぬきは
いつも なかよしの きつねと りすと いっしょに 学校
から 帰りました。

夏の あつい 日の 午後、三びきは、学校を出て、森の
家に 帰って いました。みんな せなかに 大きな
かばんを せおっていて、とても おもそうです。と
ちゅうで きつねが、

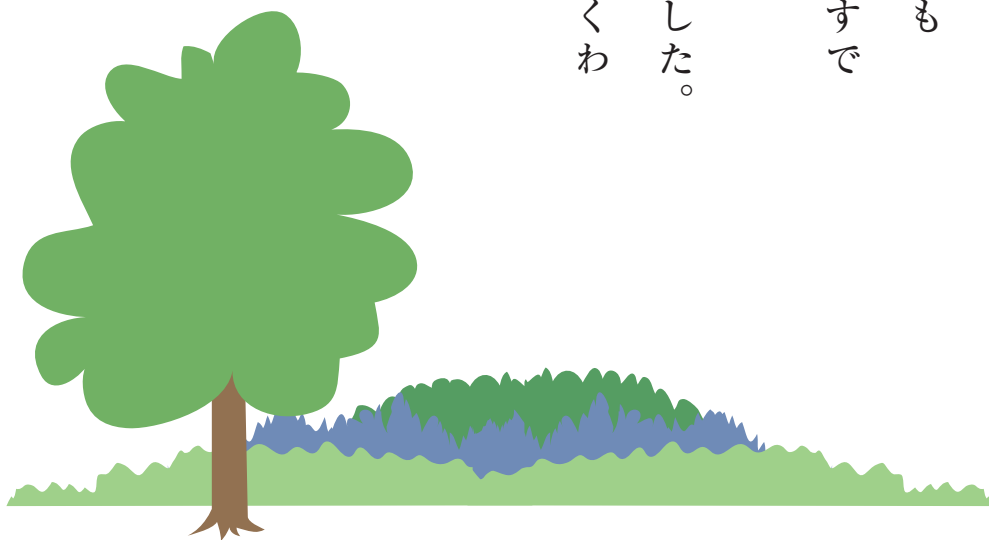
「ああ、つかれた。ここで 少し 休んでいこうよ。」
といいながら、道ばたの 大きな 石の上に かばん
を おろし、すわりこんで しまいました。



先生や 家の 人には、とちゅうで 休んだり、より道をした
りしないので、まっすぐ 通学ろを 帰るように 言われています。
けれど、たぬきと りすは、つかれている きつねに、何も
言うことが できませんでした。二ひきは こまった ようすで
顔を見合わせました。

そこへ、後から 学校を 出た おおかみが やつてきました。
「森の 入り口に 立っている くぬぎの 木に、大きな くわ
がたが いたよ。とりに いこう。」

「ほんとだ。くわがたがいる。」
きつねは、かばんを おろすと、見つけた くわがたを
つかまえようと、さっそく 木に のぼり はじめました。
しばらくすると、





が、りすは、

「すぐに おりるよ。たぬきさんも 早く おいでよ。」
と言いいながら、どんたかどん 高い えだに むかったかて のぼたかって いきます。

「ほら、とれたよ。」

と、とくいそうに 大きおおな くわがたを見みせて、

「みんなも 上あがって おいでよ。」

と、わらって います。木のほりの とくいな
りすは、

「ようし、ぼくも つかまえよう。」

そういうと、かばんを おろして、木きにのぼ
りはじめました。

「だめだよ。早はやく 帰かえらないと、くらくなる
よ。」

たぬきは、いっしょうけんめい 止とめました

たぬきは、どうしようか 考えて いましたが、しばらくして、大きな 声で 言いま
した。

「それいじょう のぼると、あぶないよ。」

きつねと りすは、木から おりてきました。四

ひきは、ならんで 森の おくにむかって 歩き

はじめました。

きつねも りすも おおかみも、にこにこして

いました。たぬきは、三びきの え顔を 見て、心

が すうっと しました。

